

東大寺図書館員・東大寺史研究所研究員

# 坂東

BANDO  
Toshihiko

# 俊彦さんに伺いました

世界遺産である東大寺、世界最大級の木造建築である大仏殿やその他の国宝・重要文化財の防災や維持管理に対するご苦労について伺いました。

2008年2月14日（木）  
東大寺事務所

## 山の中に1500tの水槽を設置

東大寺は世界遺産に登録され、世界に誇る木造建築があります。先日、韓国で南大門ナムデムが火災で全焼するという出来事もあり、防災関係ではご苦労されていると思うのですが、どのような対策をとられているのでしょうか。

**坂東**——東大寺も1998（平成10）年5月に戒壇堂横の成壇院千手堂が焼失しました。その前からスプリンクラーを設置するなど防災工事はしていたのですが、1年前倒しでやることになりました。大仏殿は、いまは前庭に放水銃があり、軒下にはドレンジャーも設置されています。また、二月堂東の山の中に1500tの水槽を置き、火災の際は落差でその水が落ちるようになっています。南大門に関しては、火災報知機と、周

辺4個所に放水銃が取り付けられ、防犯カメラやセンサーで、火が出たらすぐわかるようになっています。そのほか、境内全体の防災や防犯のために通信の連絡網を整備しています。

## 創建当時からその時代の最新の技術を取り入れていた

東大寺の大仏殿は長い歴史のなかで二度の焼失を受けて、その都度復興されています。また、明治と昭和に大修理をされています。特に、明治の大修理にはトラス構造ということで鉄骨を入れられ、屋根の支えをされました。古いお寺ですと昔ながらの復元をされるのではなかったのですが、その時代の最新技術を取り入れることに対して、お寺として抵抗はなかったのでしょうか。

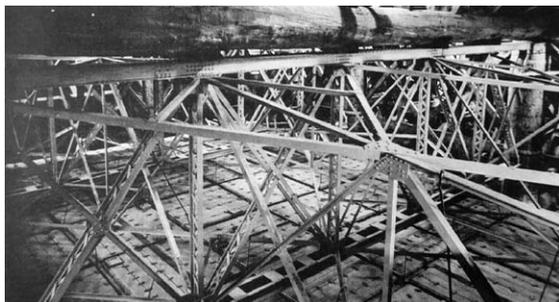
**坂東**——新しい技術を入れることには、お寺としては抵抗はなかったと思います。そもそも東

大寺の創建時も、地面を付き固めるときに版築という当時最新の技術を使いました。また、開眼の導師をつとめたのは、菩提僊那ぼだいせんというインドのお坊さんでしたし、シルクロードから運ばれたもので開眼供養の法要を行うなど、国際性も豊かでした。また、鎌倉時代の重源上人ちゅうげんをはじめ、

写真1(右) 放水銃による消火訓練の様子(出典:東大寺防災施設工事・発掘調査報告書 防災施設工事篇)



写真2(下) 東大寺金堂(大仏殿)天井裏の鉄骨組の様子(出典:国宝東大寺金堂(大仏殿)修理工事報告書)



聞き手

溝渕利明  
編集委員

[photo] 河合隆富  
[writer] 駒崎文男



### 坂東俊彦(ばんどう・としひこ)さん プロフィール

1970年岐阜県生まれ。2000年奈良大学大学院文化財史料学専攻博士後期課程修了。2003年より現職。東大寺の歴史を史料から明らかにする一方、一万点を数える国宝・東大寺文書をはじめ数多くの文化財を次世代に伝えるべく、試行錯誤を重ねる毎日。

最新の技術をもった方々が、これまでもずっと再建造営にかかわってきました。ですから、お坊さんとしても抵抗がなかったのではないでしょう。意識のなかには、元通りに戻すという「復元」ではなく、新たにづくり直す、「復原」ということがあったのかなと思います。

明治の修理では、コンクリートは鬼瓦を固定するために使ったようです。昭和の修理のときは、そのコンクリートが取れなくなり、全部やり直しました。昭和に修理したのは、明治の大修理で重量軽減を目的に瓦を減らしたために隙間ができてしまい、雨漏りがして、中の野地板が腐ったのが主な原因です。それでまた昔通りに間隔を葺き替えました。軽くするために瓦の裏を削ったり、十何種類か試作し、割れないような工夫もしました。

—— 土木構造物は、通常日常点検をし、異常があれば詳細点検をして、そこで不具合があれば修理をするという維持管理をしています。東大寺ではどのような維持管理がなされているのでしょうか。

**坂東**—— 昭和の修理のときに、瓦は百年もつという修理をしたということで、特に検査はしていません。ただ、ここ3年ほど、公慶上人や聖武天皇などの大法要が続き、散華(蓮の花をかたどった色紙をまいて供養する)をするために屋根裏に小屋をつくるので、そのときにいろいろチェックしました。そういった機会がないと、なかなかしません。いま一番問題になっているのは、法華堂の須弥壇(仏像を安置する台座)です。上に仏像が載っていますので、地震が来たら倒れるだろうと言われています。現在だいぶ沈んでいる

ためジャッキアップしています。根本的な対策ではないので修理をしなければと思っています。それについては何年か一度、下にもぐり点検をしています。

—— 南大門や法華堂の解体修理はどういう周期で行われるのでしょうか。

**坂東**—— 昭和30年代に法華堂の解体修理を

しました。構造上建物としての解体修理というのは、百年周期くらいだと思います。耐震ということでは、大仏殿も実は断層の上にあることがわかっており、問題になっています。

### 維持だけでも大変で修復には限度がある

—— 東大寺の正式名称は、金光明四天王護国之寺で、まさに四方を護るといってお寺ですが、現在は大仏殿に二天しか復原されていません。また、講堂なども復原してほしいと思っています。のですが、いかがでしょうか。

**坂東**—— 昭和の修理が終わったところから意識があったと思うのですが、修理をしなければいけないところがたくさんあり、難しい問題です。奈良のお寺はどこもそうですが、東大寺もいわゆる檀家寺ではありませんので、観光客の入堂料で維持をしています。そのため、修復にも限度があり、緊急性を要するものから順番に行っています。いま、古文書などの修復をしています。建物でも年間で億単位の費用がかかります。建物になるともつと大変です。多くの皆様にご協力いただければと思います。

—— 東大寺は世界遺産でもあり、宮大工さんのような方たちに常駐していただいて、日常検査や維持管理ができるようになればと願っています。本日は修二会(お水取り)前のお忙しいなかありがとうございます。